

県被団協会長 今年も元気に行進

行進 1 2 日目(7 月 13 日)、真夏の太陽が照りつける中、9 時出発集会、通し行進者松浦さんに続いて大分県被団協会長の奥城和海さんが「オバマさんのプラハでの演説以来核兵器廃絶の世論が大きくなっているが、何もしなくて核兵器がなくなるものではない。核兵器廃絶の運動を強めてこそ核兵器はなくせる。一緒に頑張りましょう。」と参加者を激励しました。奥城さんは午前中いっぱい行進に参加しました。

また、奥城さんから「核兵器のない世界を」の署名 39 筆とカンパ 6000 円が県原水協に届けられました。

小さな USA から大きな USA に原爆投下の謝罪を求めた

宇佐市への要請行動には行進参加者 10 名余りが参加しました。市長、副市長は所要で不在、総務部長が応対し「市長から核兵器廃絶のため平和行進で頑張っている皆さんによるしく」とのことづけを行進団に伝え、市長の署名とペナントを渡されました。

市議会議長は在庁しており、議長応接室で応対しました。行進団からの核兵器を巡っての情勢の報告と要請事項に対して、議長はあらかじめ用意したメモを読み上げましたが、その中で議長は、「合併で失効した“非核平和宣言”を新市として新たに議決したこと、また、広島・長崎への原爆投下に対して小さな USA(注:宇佐市)から大きな USA(米国)に対して謝罪を求める決議をした。」と述べ、その場で署名とペナントと募金を行進団に手渡しました。

もう少し歩く距離を伸ばしたら

今年もまた被団協の奥城さんから、折角素晴らしい活動なのに参加者が少ないのが残念だ。歩くにつれて参加者が増えていくような企画はできないか。と指摘され、また、暑い中だけれども、宇佐市内での歩く距離を増やす工夫をしてもらいたい。と具体的な提案もいただきました。現地の実行委員会ともよく協議して提案が実現されるよう努力したいと思いました。

参加者からたくさんの感想文

参加者に「参加票」を書いてもらい、余白に感想を書いてもらっていますが、今年もたくさんの感想が寄せられています。はじめて参加した人から久しぶりに参加した人、お父さんと参加した子供の素直な感想もあります。今後特集でお伝えします。